秘伝規矩元法別伝・八事絵巻と
規矩元法別伝目録秘八目録図解の比較

堀　口　俊　二・下斗米　哲　明

2017年１月

新潟産業大学経済学部紀要　第48号別刷

BULLETIN OF NIIGATA SANGYO UNIVERSITY
FACULTY OF ECONOMICS

No.48 January 2017

秘伝規矩元法別伝・八事絵巻と規矩元法別伝目録秘八目録図解の比較

Comparison of the Picture Scroll of Hiden Kikugenpou Betsuden-Hachiji and the Illustrations of Kikugenpou Betsuden Catalog Hihachi Catalog

堀　口　俊　二・下斗米　哲　明

Shunji HORIGUCHI・Tetsuaki SHIMOTOMAI

要旨

オランダ測量術が1641年から1649年に日本に伝わった．江戸幕府(1603-1867)は国絵図作成のためにオランダ流測量術を奨励した．秘伝規矩元法別伝・八事絵巻と規矩元法別伝目録秘八目録図解は，清水貞徳(1645-1717)が確立したオランダ流測量術である．絵巻は題名，著者，年代不明である．目録は盛岡藩家臣簗田義智(義和)が1759年に盛岡藩別家の殿様に献上するために書いた．これら２つは，目録の最初の４ページを除けばほぼ同じ内容であり，どちらが古いか以前から問題となっている．本稿の目的はこれを考察することにある．このため我々は２つの違いを詳細に比較する．その結果「絵巻は目録より古いであろう．目録は殿様用に模写・改良したものである．」という結論を得る．さらに清水太右衛門尉貞徳の説明箇所では，絵巻では門弟は「数千人」とある．この「数千人」は当時の清水流測量術の隆盛を示す貴重な数値である．

キーワード　紅毛(オランダ)流測量術，秘伝規矩元法別伝・八事絵巻，
規矩元法別伝目録秘八目録図解，清水貞徳，細井廣澤，簗田義智(義和)

１．清水流測量術とは

樋口権右衛門(1601-83)は紅毛(オランダ)流測量術の開祖である．寛永(1624-45)の終わり頃，オランダのカスハル(カスパル)より樋口に伝えられたという説がある．これは平板の上の紙に測器を用いて相似三角形などにより地形，建物の縮図などを写し取る技法で，直接現地で図を作成する平板測量術のことである．規矩術という名称は紅毛流測量術で用い始めた．「規」はコンパス，「矩」は定規である．清水流測量術とは，樋口が学んだ紅毛流測量術を，金沢家を通して受け継いだ清水貞徳(1645-1717)が確立した国絵図などの地図作成のための測量術である．

２．秘伝規矩元法別伝・八事絵巻と規矩元法別伝目録秘八目録図解およびこれらの価値

(１) 秘伝規矩元法別伝・八事絵巻(影印は[6])

2007年に札幌の石川雅康氏(旧姓下斗米，祖先は二戸市の下斗米家)の自宅で清水流測量術のカラーの絵巻が見つかった．一般的な免許皆伝書の場合は，師匠清水貞徳の署名(花押)と年月日があり，後人が加筆した時には書写・入手の由来を示す識語が続いて書かれる．それに続き，宛名の弟子名が記されるのが本当だが，これらは無く，末尾は清水貞徳の経歴で結ばれている．従ってこの絵巻は門弟に伝授する以前のものであろう．また巻末が欠損した様子は無いので，清水貞徳の手控えの雛形原本か，門弟等の写本ではないかと考えられる．蝦夷地古地図研究家の高木崇世芝(たかよし)は，材料や画法などの面から年代鑑定し，「紙質・岩絵の具(顔料)・画法・漢文調の文面などから，江戸中期[1]の可能性がある.」という判定結果を寄せている．

本文は，いきなり「剸盤之働」(縮図法)の説明から始まる．「別伝并秘八之終　以上」の後に，「右規矩元法別伝一巻并八事之秘伝」とあるので，この絵巻を「秘伝規矩元法別伝・八事絵巻」と呼び，以下単に「絵巻」と呼ぶ．(現在この絵巻

1　江戸中期は約1651年から1745年とされる．

は[2]『清水流測量術秘伝書』として，長野県中条村の「はかりの館」が所蔵)

(2) 規矩元法別伝目録秘八目録図解[5]　インターネットで，白黒で取得可能．原本はカラー．

この本は，宝暦９(1759)年に盛岡藩家臣簗田(やなだ)義智[2](義和,？-？)が書き，盛岡藩別家(新屋敷家初代)の三戸信居(のぶおり)(1738？-1787？)に献上された．最初の「別伝自発之巻」という題名から「専盤の働」の前までの４ページ余り，殿様に献上する文章(「右規矩元法別伝一巻并八事…」)，系譜の清水貞徳より後の３名を除けば，内容は絵巻と同じである．以下，この書を単に「目録」と呼ぶ．

(3) 価値

絵巻，目録は清水流開祖の清水貞徳の一子相伝(口伝秘術)が学術的に文書化され，当時の諸藩が国絵図事業等に必須とした測量術を飛躍的に普及させた先駆的役割に価値がある．巻末の「伝来ノ棟統」には，日本の測量の発祥から清水貞徳が規矩術を確立するまでの師弟系譜が列記されている．

３．絵巻の伝来経路，絵巻と目録の概略，共通点と大きな相違点

以下，我々は文字，文章，文脈，測量図，系譜などの違いを比較する．このため比較資料の[2],[5]の原文，測量図を多用する．

(1) 絵巻の伝来経路の推定

巻物の所有者から人物の繋がりを遡って調べると次の系列を得る．これらの人を通して絵巻が伝わったとも考えられる．

清水貞徳(1645-1717)，長子太右衛門→細井廣澤(1658-1735)→ひ孫の細井萱次郎(1798-1820)→相馬大作(1789-1822，実名下斗米秀之進将真(まさざね))→下斗米惣蔵雅教(そうぞうまさきよ)(1793-1867)→田中館彦右衛門(1821-58)→下斗米与八郎(1844-1923)→長男耕造(1886-1945)→耕造の２男石川(旧姓下斗米)俊夫(火山学者，北海道大名誉教授)→俊夫の２男石川雅康

細井萱次郎と下斗米秀之進の繋がり(重要)　萱次郎の祖父は儒学者で書家の廣澤であり，父の知文(1711-82)も儒学者の家系を継ぎ長子萱次郎の教育に熱心であった．平山行蔵(1759-1828)は武芸全般に優れ，日本の武芸十八般を定めた．萱次郎は1809年行蔵の道場に住み込み，筆頭師範代で塾頭下斗米秀之進に鍛えられ，後に北辺警備の志に意気投合し義兄弟の契りを結んだ（『孫子解』，『俗つれづれ』平山行蔵著）．

清水貞徳と細井廣澤の繋がり　絵巻の巻末に略歴があり，貞徳は「1702年，稲葉丹州に仕えて，1717年６月26日，70歳の時に病にて卒す．」とある．稲葉丹州と称したのは，譜代大名稲葉淀家の稲葉丹後守正往(別名正通，1640-1716)と次代の稲葉丹後守正知(まさとも)(1685-1729)である．年齢から考えると丹州は正往と推測される．廣澤は儒学者・書家・篆刻家・天文家・測量家と多彩な才能をもつ学者である．算術，剣術にも優れ，幕府重臣柳澤吉保(1658-1714)に仕え，物頭を勤めたほどの武士でもある．廣澤も1702年頃から正往から毎歳竊(せつ)(意味　ひそかに)米二十苞(ほう)，醤油十樽，金四十両を送られ厚遇されていた(藤田篤訳『譯註　先哲叢談』明治44刊)．

従って貞徳と廣澤は測量，稲葉丹州を通じて親密な交流があり，廣澤が清水貞徳親子から絵巻を入手及び筆写した可能性が考えられる．

(2) 絵巻は縦約21cm，横約11mの黒の木芯に巻かれていて，カラーで綺麗に書かれている．一方目録もカラーであり，縦8.3cm，横13.3cmの本で，白紙ページを除いて80ページである．

(3) 絵巻・目録は，規矩元法別伝一巻，八事ノ秘伝，道具之事，伝来ノ棟統の四部立ての構成である．このうち規矩元法別伝一巻と八事ノ秘伝が測量の本文であり，道具之事，伝来ノ棟統は付録に相当する．

目録は　最初に別伝自発之巻（本来は縦書き）

箇條

現差用捨，凡例，目的并眼精之格，分基発法

がある．しかし絵巻にはこれらの部分がなく，いきなり「剸盤之働」から始まる．何故，絵巻はこれらの部分が省略されたのかは謎である．§5纏めと結論で述べるように宗教との関連かも知れない．（また[9]には，同じタイトルで現差用捨，凡例之格，目的并眼精，眼精，分基発法，根発之働などの説明が漢字カタカナ混じり文である．）続いて目録，絵巻共に，剸盤之働から道具之事まで同じ測量の説明である．これらのタイトルを以下

2　目録の系譜の最後に梁田門弥太とあり，その左に小文字で義智のサインがあるから，これが著者である．ところが『岩手県姓氏歴史人物大辞典』p.1083には簗田門弥太義和とある．

に列記する．

剸盤之働，知進退而高，知向山前山之差，知谷底之幅形，知山上谷底木高，指谷深所之間数，指高何分，以分度求高，知天守櫓(？)等居所，知土手陰之木高，極中不中筋違，沼河真矩筋違，同矩筋重，指向之真矩，定向真矩之間従脇而指之，直之縄真矩之技，左右平町，四方平町知筋違一開，知前面一開，規矩元器之働，分度角形，分度角形，摸差理於根発，或人数有五千是十二手配則一手之問人数，或一組千六百五十人宛十八組之問人数，相場割或米有十八石七斗金一両之相場一石二斗五升替問代金銀，自乗法，或百八十五間四方之問歩数，尾首形之知歩数鈎三十間股四十間云寸，五角之知歩数或一面一尺宛之五角之知歩則如図，五角知歩数，再乗法，堀掘時或上幅十八間下幅十二間深五間長一町問坪数，鈎股弦付勾倍或鈎三間弦五間問股，勾倍，徑矢弦，聚不盡(尽)事，円積知円周

別伝終

秘八事之傳

城図用見盤并図写，円知平町円物求径貫術也，中不中片極，前面用要，前後進退真術，地取真術，沼河真術，大丸番付

八事終

都而三拾三箇条　八事供

道具之事　方円器，意順之矩，火剋（刻），腹膝之矩，櫓，櫓台，角写之矩

別伝并秘八之終

以上

(このあとP.75の右の９行の文章があり，最後の(4)へと続く．)

(4) 傳来之棟統では，絵巻，目録とも，起于漢土から樋口権右衛門→金沢刑部左衛門→金沢清左衛門→金沢勘右衛門→清水太右衛門尉貞徳　までは同じである．目録はさらに 今井藤太夫→梁田物集女→梁田門弥太義智(義和)→盛岡藩別家の三戸信居(のぶおり)(1738-1787)

目録の最後に信居公(陸奥盛岡藩７代藩主南部利視(としみ)の八男)とだけ書かれている．これより目録は信居公に献上されたものである．これは絵巻が目録より古い証拠と考えられる．

(5) 目録より絵巻の方がカタカナの添え字，返り点レ，一，二が多い．

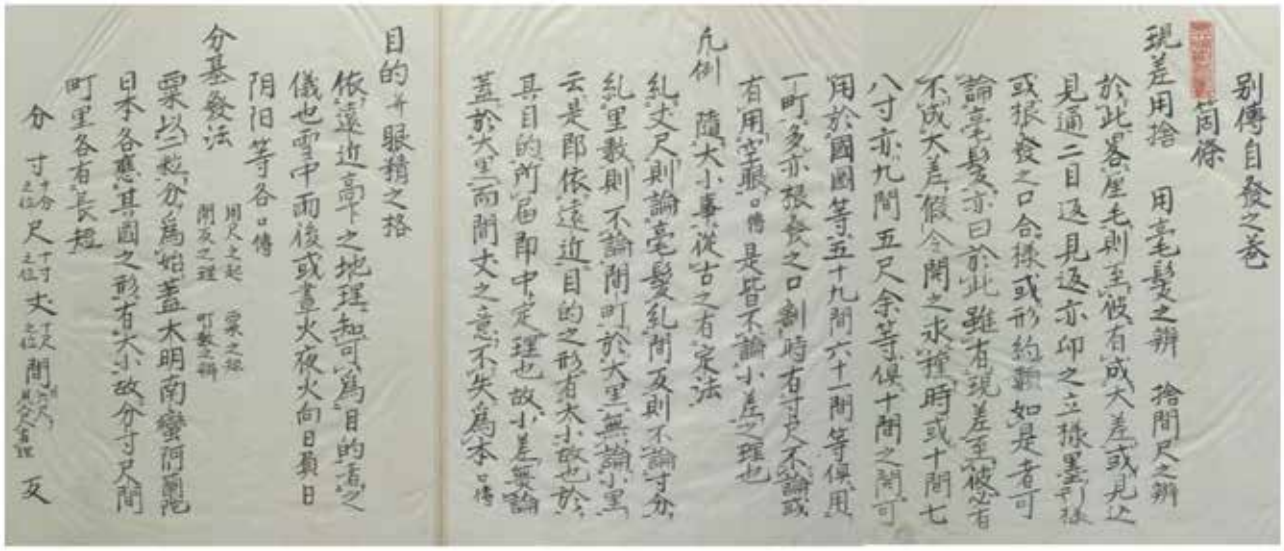
(6) 測量器は絵巻の方が目録より精密に描かれている．測量図は，絵巻は巻物なので，地形が十分に収まっている．目録は縦長の本なので，測量図を縦に描いている．

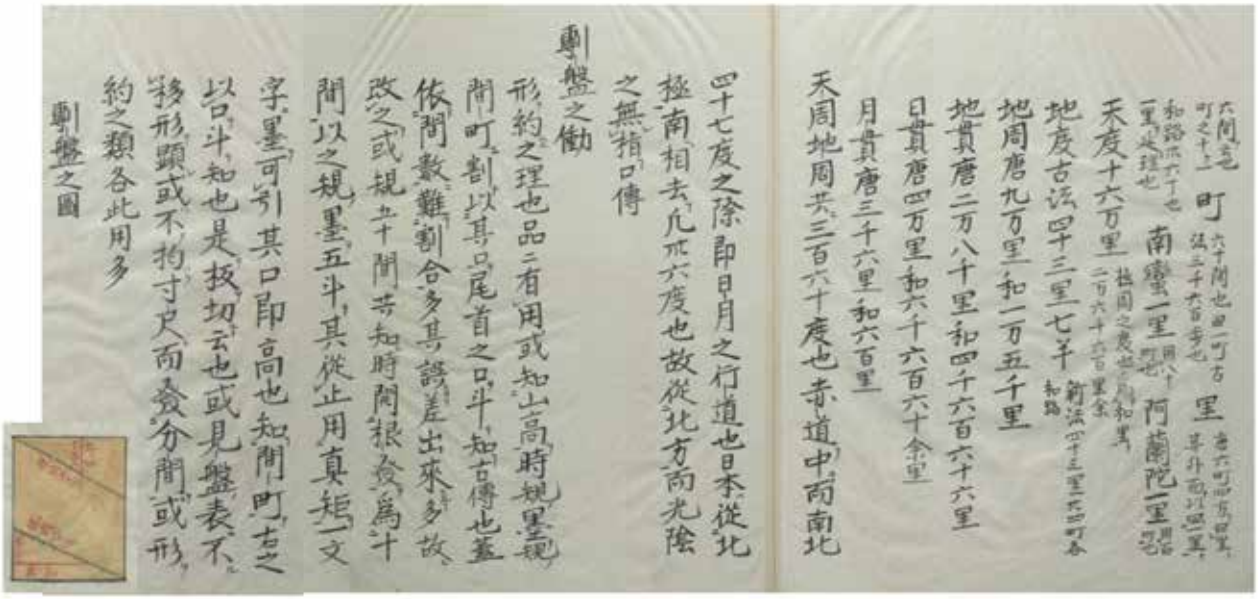
(7) 絵巻の測量図の説明文は黒字である．一方目録の説明文はすべて朱(赤)字である．何故か？

目録の最初から「剸盤之働」までの原文を与える．

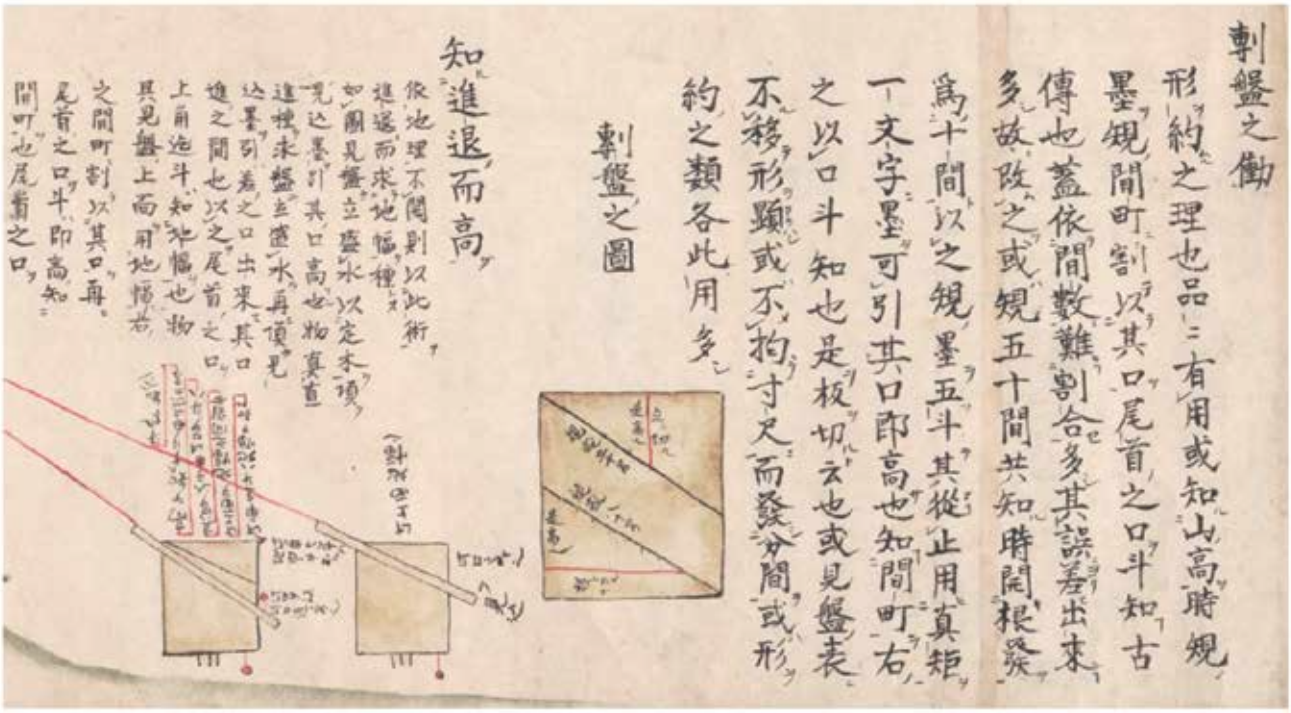
次に絵巻の「剸盤之働」と「知進退而高」の一部分を与える．タイトル，著者名，年は無く，いきなりこの「剸盤之働」から始まっている．

目録





絵巻



4．絵巻と目録の細部の相違点

原文からの貼付けの文章や図は左(上)が絵巻，右(下)が目録である．

(1) 剌盤之働から円積知円周までの細部の相違点

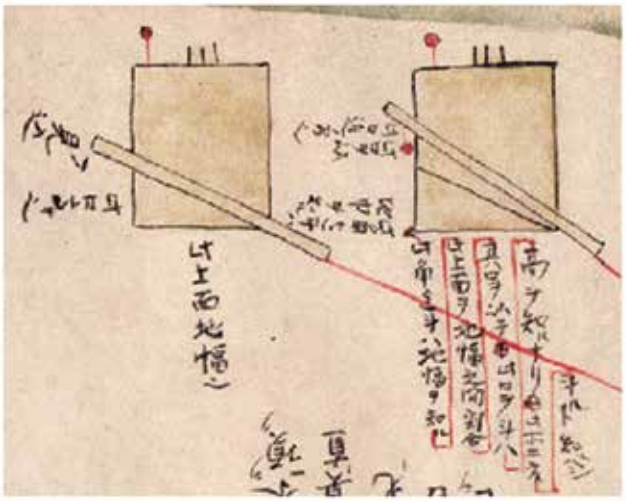
剌盤之働　ここには３つの「墨」がある．絵巻の「墨」の上の「土」は１番目の「土」は他の２つより大きい．れっか(４つの点)は１番目の最初の点は左下方向である．下の「土」は３番目の「土」には点がある．絵巻の著者は書体を変えて書を楽しんでいるように見える．しかし残りの３つの目録の「墨」は同じ書体で，このような遊びは見られない．

絵巻　　目録

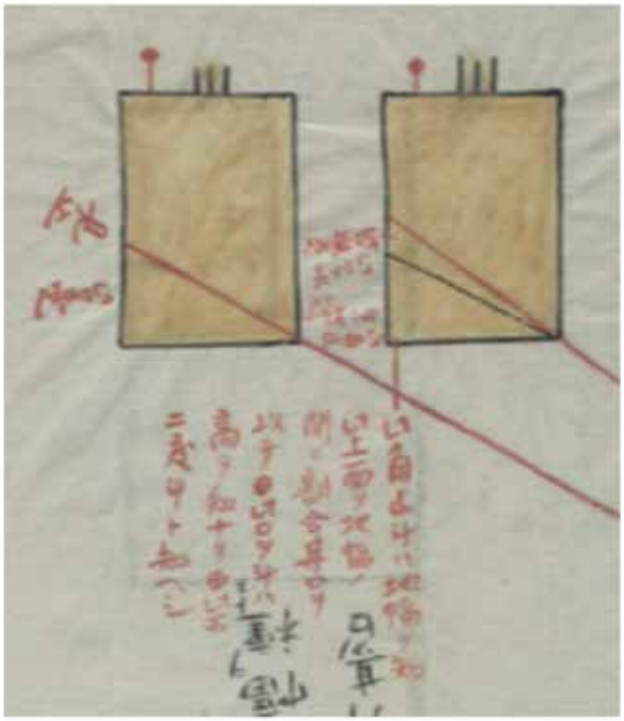
知進退而高　文章は同じ．測量図は次の箇所が異なる．絵巻の黒字の５行と目録の朱字の６行は同じ文章である．絵巻の５行は測量線と交わっている．しかし目録の６行は測量線と交わらないよう

に左の測量器寄りである．絵巻は左側の測量器の下に「此上面地幅？」があるが，目録にはない．これは簗田が６行の説明文を書き終えて安心して，「此上面地幅？」を書き忘れたか写し忘れた(必ずしも絵巻とは限らない)と考えられる．

絵巻



目録

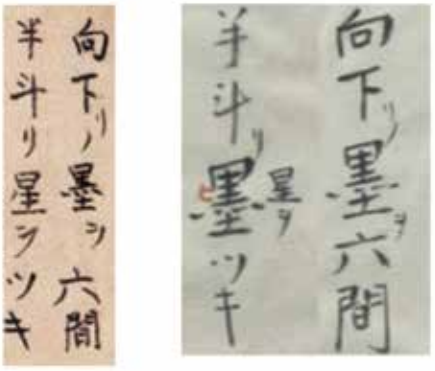


知向山前山之差　文章　左の絵巻は「星」であるが，右の目録は「墨星」となっている．字が似ているので写し間違いの訂正か？

測量図は次の差異が見られる．絵巻では，２つの見込み線の間に，別人が後で書いた測量の誤りを指摘する７行の文章があるが，目録にはない．

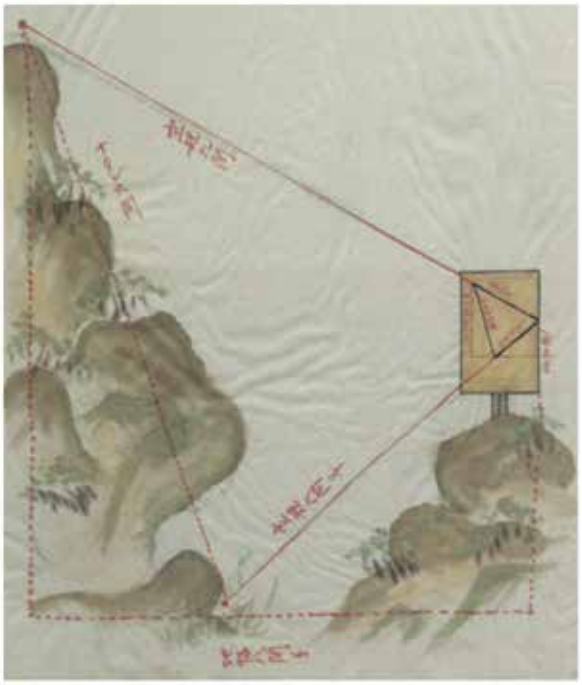
絵巻には測量器に「知幅八間半」がある，測量器の下に「前山三間」，山の高さを示す「向山五間半」があるが，目録にはこれらがない．これは絵巻の誤りの指摘に従って訂正したと考えられる．

絵巻　　目録



絵巻

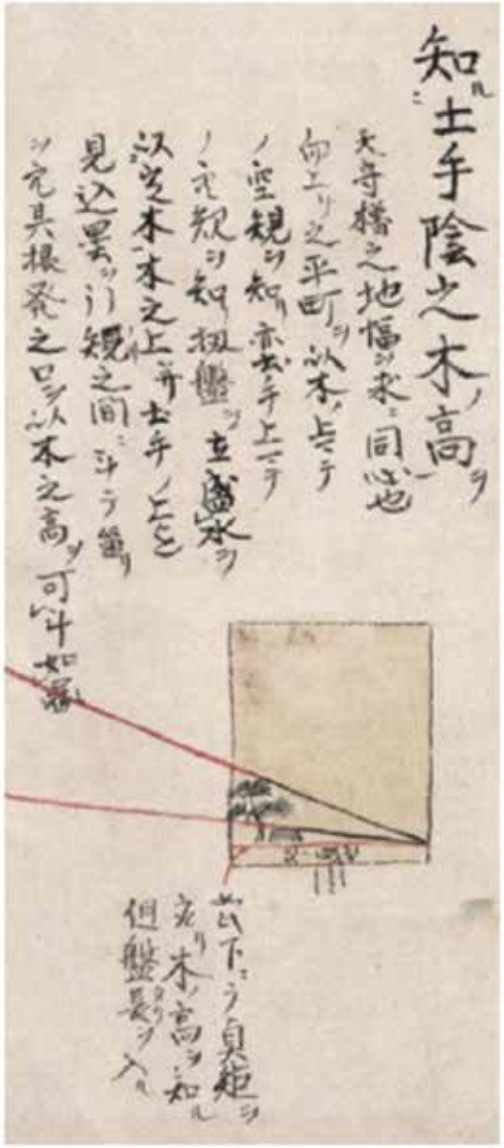
目録



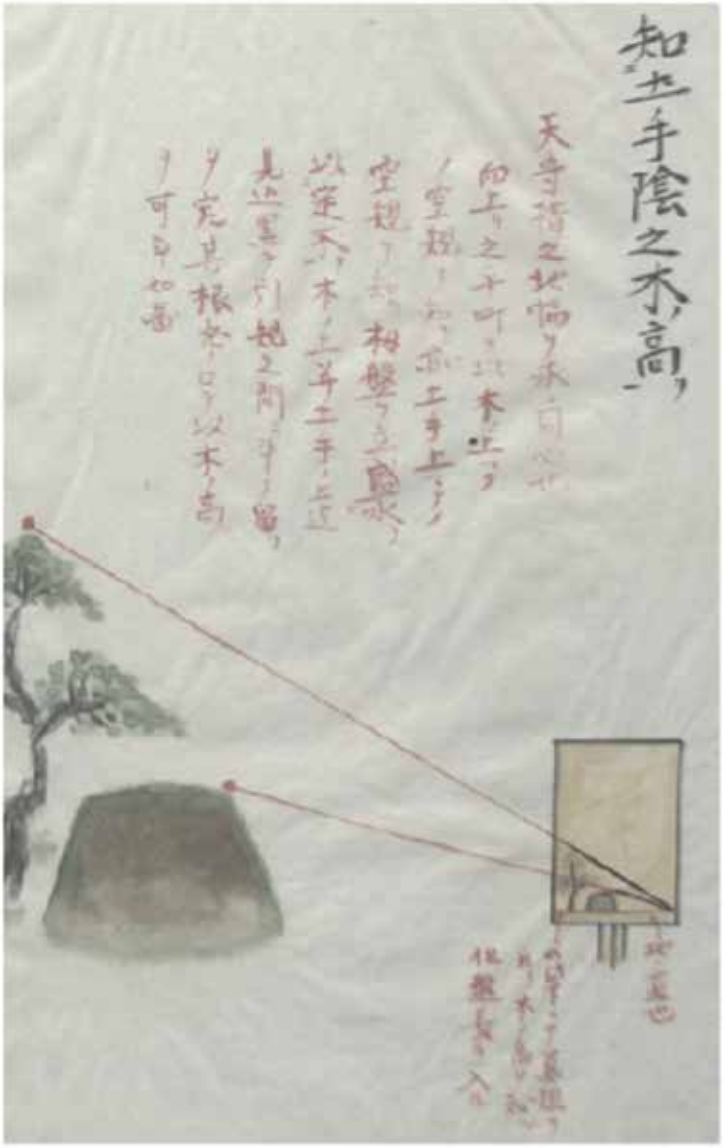
知土手陰之木高　文章　絵巻は黒字であるが目録は朱字である．何故か？絵巻は最後の文章が測量の朱線に掛かっているが，目録は調整して掛かっていない．

測量図　絵巻の長方形の測量器(平板)の松の下の行に「地ノ直也」とあるが，目録では長方形の外に縦書きでこれがある．これは長方形の中に↗「地ノ直也」を書けなくなったので，外に変更して書いたのである．本来の位置は絵巻の長方形の中の文章であろう．

絵巻

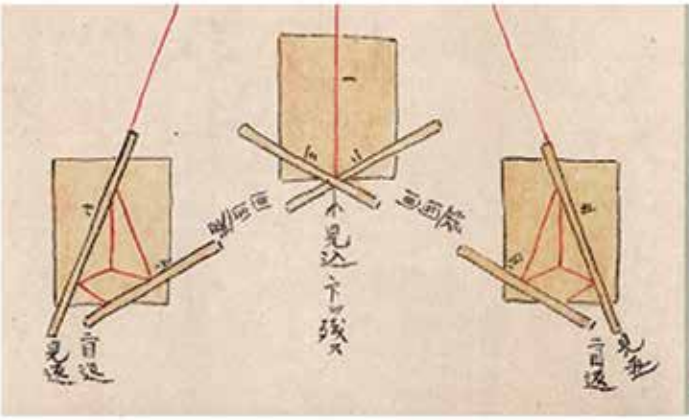


目録

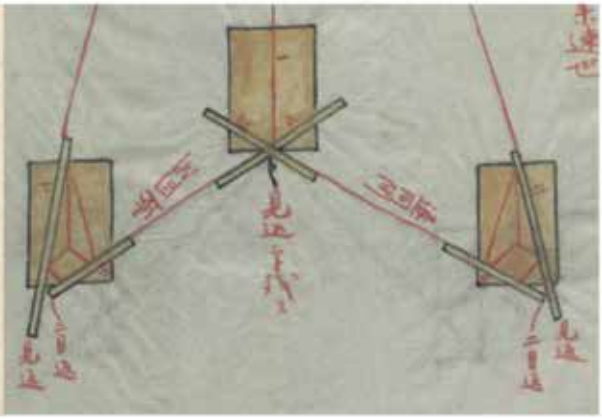


極中不中筋違　文章は同じ．測量図　絵巻には測量器の間に直線はないが，目録には２本の直線がある．

絵巻



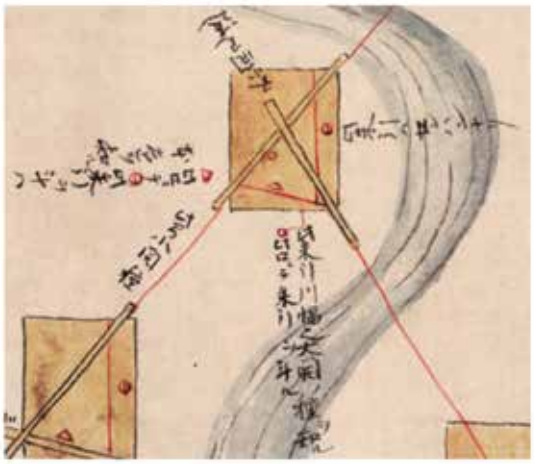
目録



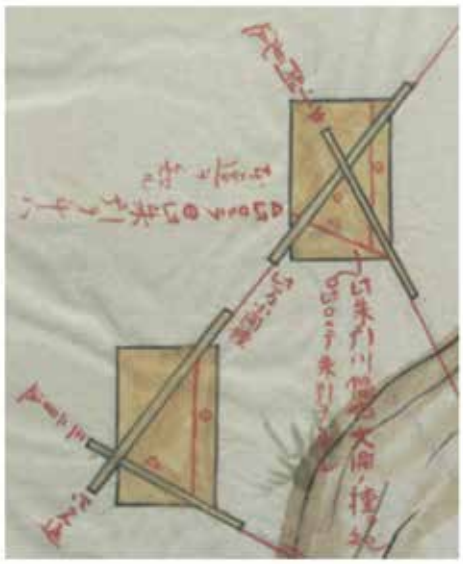
同筋違重　文章はない．測量図　絵巻には

があるが，目録にはない．

絵巻



目録

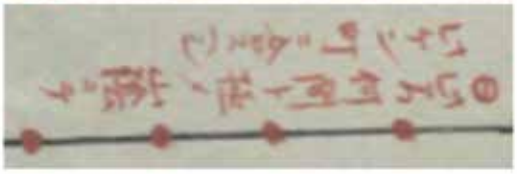


直之縄真矩之技

測量図　上の絵巻は「何ト極メ」であるが，下の目録では「何間ト極メ」と「間」がある．これは「間」を追加してより正確に記述したのであろう．

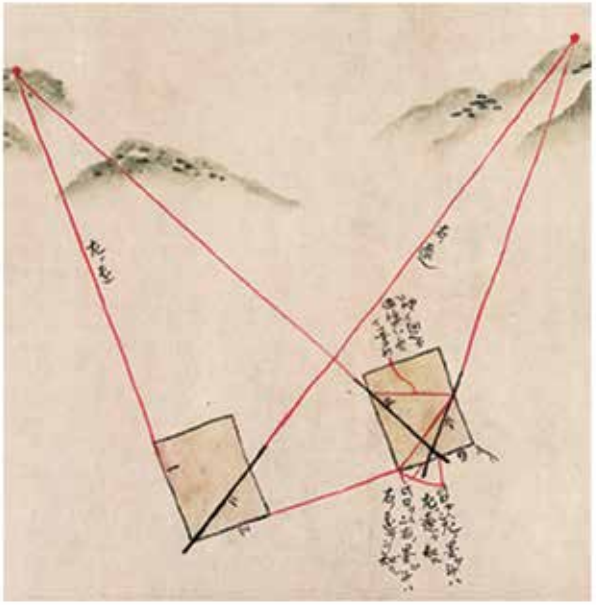
絵巻

目録



知前面一開　文章なし．測量図　絵巻は右の長方形の下に縦書きで説明文がある．しかし目録はこれらの文章を左と右に分け横書きである．これは本に収められないため急遽このようにしたのである．目録は模写の可能性が高い．

絵巻



目録

分度角形　文章

目録には「四」と「六」の間に「 ㄩ 」があるが，絵巻にはない．絵巻の原文の解読は次である．「三四六八の角は方より発る．五七九十の角は円より発るの理なり．蓋し円より之を求めれば知らざることなし．」従って目録は間違いである．簗田はうっかり「三四五六八」と続けたのである．これは模写の証拠と思われる．

絵巻　　目録

目録は，「得」を忘れたので後で小さく横に挿入して修正している．

絵巻　　目録

尾首形之知歩数鈎三十間股四十間云寸

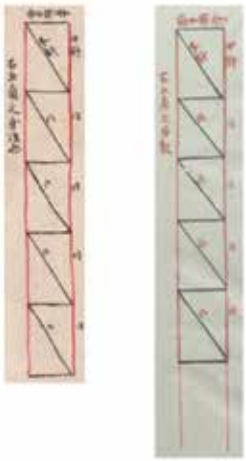
文章　絵巻には「倍」は無いが目録にはある．どちらも同じ意味である．

絵巻　　目録

五角之知歩数或一面一尺宛之五角之知歩則如図

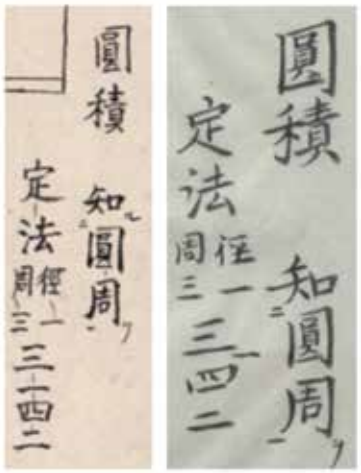
測量図　目録は縦長の長方形の左右の辺の下に２本の直線が勢いで延長されている．これは誤って延長したのである．

絵巻　　目録



円積知円周　文章　目録の3142(円周率？) の１は後で付け加えている．写し忘れの追加であろう．

絵巻　　目録



(２)秘八事之伝の細部の相違点

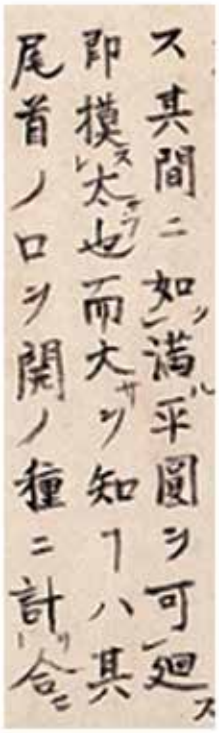
城図用見盤并図寫

文章　目録は「於ニ」を小文字で，後で付け加えている．写し忘れか？

絵巻　　目録

円知平町円物求径貫術也　文章　絵巻は「可レ廻」で正しい．目録は「可」で行替えをしたので「廻」は次の行に書いた．このときうっかり1行飛ばして「尾首ノ口…」と続けた．従って後で慌てて小さな字で「即模…」を挿入した．これは文脈を考えていない．これは目録が模写である証拠であろう．

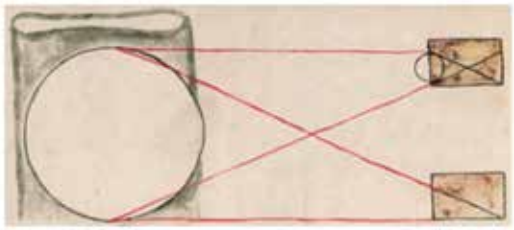
絵巻



目録

測量図　絵巻は巻物なので横であるが，目録は本で幅が狭いのでこれを90度右回転している．絵巻は大きい円を包む物体(円物)があり，測量家はこの円物の直径を求めたいのである．ところが目録はこれを省略している．絵巻が本来の測量図である．

絵巻

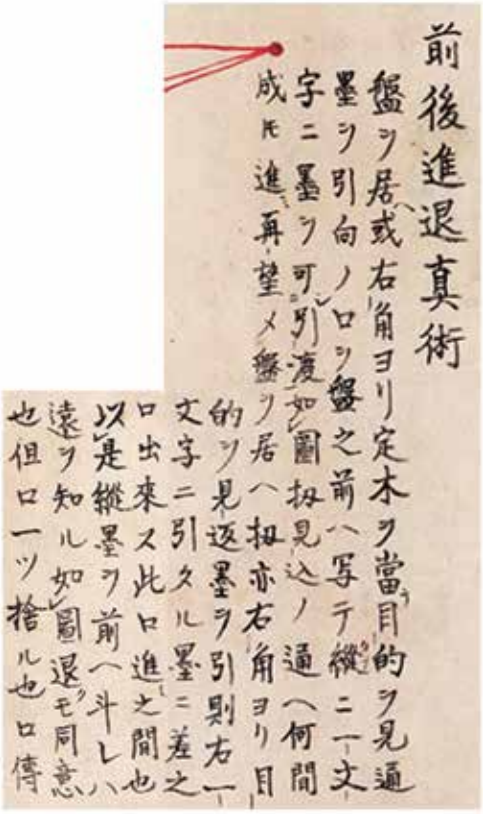


目録

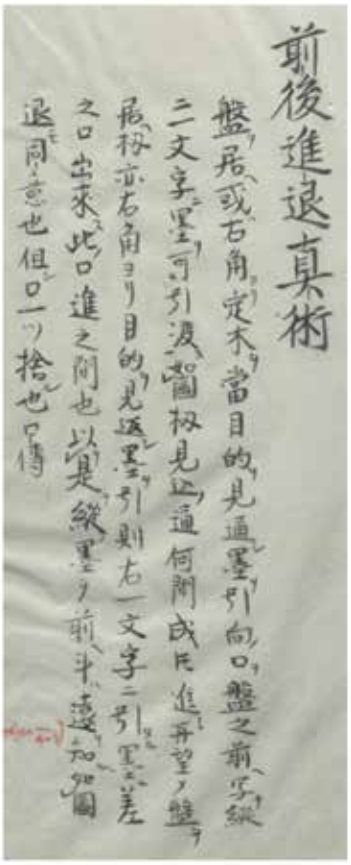
前後進退真術

文章　絵巻はカタカナが他の　文字と同じ大きさであるが，目録では右に小さく書かれている．

絵巻



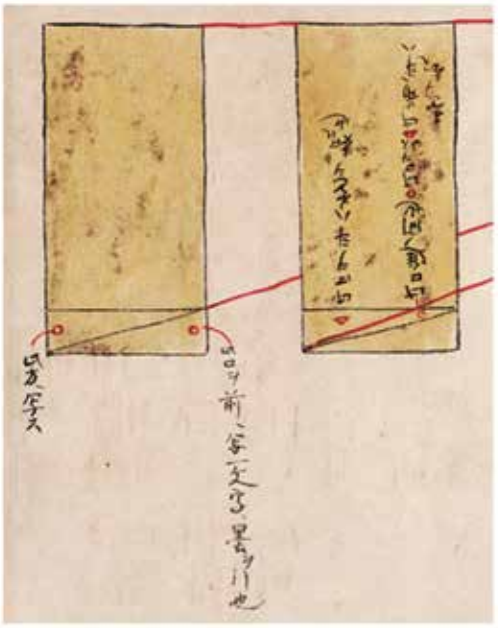
目録



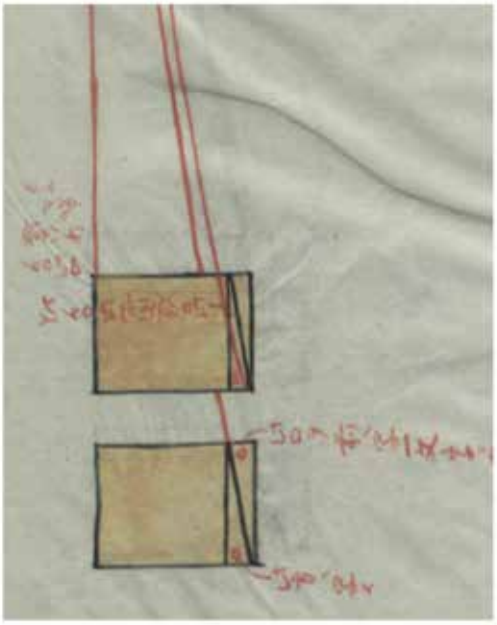
測量図　絵巻の図を90度左回転して，本のスペースに合うようにしている．目録は絵巻の右の短い文章が

として長方形の外にある(拡大図参照)．これは絵巻の２つの文章を１つに纏めた文章であろう．これは目録の模写を示す証拠と考えられる．

絵巻

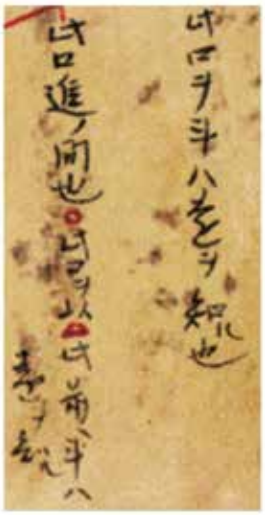


目録

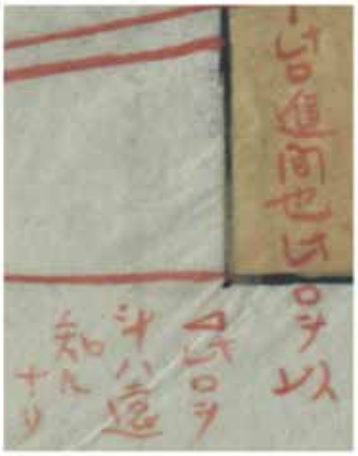


拡大図

絵巻



目録



地取真術　文章

絵巻

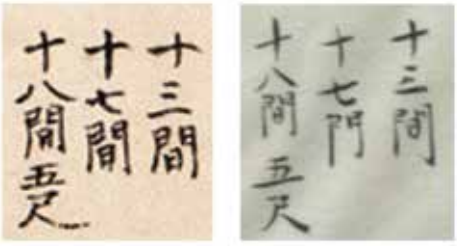
目録

絵巻「へ」が目録「得(へ)」に変わっている．

絵巻　　目録

絵巻は「 」であるが，目録は「 」と絵巻の「業」が小さく添えてある．

絵巻　　目録

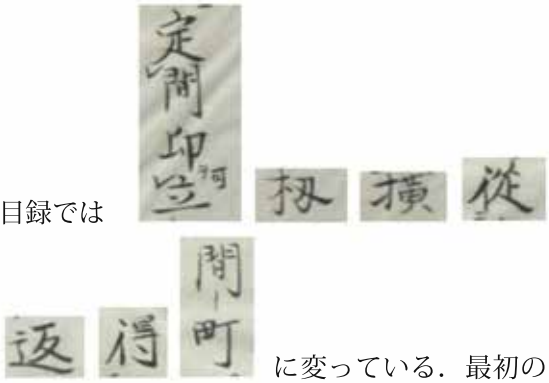


目録の「十七門」の「門」は「間」の明らかな間違いである．これは普通起こり得ないミスである．

沼河真術　文章　絵巻の

が

目録では



に変っている．最初の「定間…」において，目録は「可」が小さく添えてある．「定間…」以外の漢字に違いが見られる．目録の「間ー町」は「ー」がある．

測量図　絵巻の図は大きい．目録は90度右回転して縦に小さくして本に収めている．図略．

(3)道具之事　の最後に，　別傳并秘八之終

以上

とあり，続いて以下の文章がある．原文は縦書きであるが，比較のため横書きで絵巻と目録の両方を与え，違いを考察する．行は絵巻に従う．目録の空白は上の絵巻と同じ漢字である．アンダーラインは著者が付けた．

１行目　絵巻，目録　右規矩元法別伝一巻并八事
２行目　絵巻　　之秘伝者貞徳年来以工夫撰
　　目録　　年来<u>以後</u>以工夫撰
　目録に「以後」がある
３行目　絵巻，目録　深秘為自発之秘画所也蓋古
４行目　絵巻　　伝箇條一通之外依懇望雖有
　　目録　　<u>御</u>懇望
　目録に「御」がある
５行目　絵巻　　令伝授之輩於別伝自<u>発</u>之画
　　目録　　<u>奉</u>　　<u>伝</u>
　「令」→「奉」，「発」→「伝」に変わっている．
６行目　絵巻　　授之<u>者</u>希也然貴殿不絶御執
　　目録　　<u>仁</u>希也然不絶
　「者」が「仁」に変わっている，目録に「貴殿」がない．
７行目　絵巻　行感御厚情授之畢雖為免許
　　目録　行<u>奉</u>感御厚情<u>奉</u>授之畢雖為<u>奉</u>免許
　目録に３個の「奉」がある．
８行目　絵巻　以後於別伝八事之画堅末門
　　目録　以後於別伝<u>自発</u>八事
　目録に「自発」がある．
９行目　絵巻　末錬<u>之</u>輩不可洩之一巻也
　　目録　末錬輩不可<u>奉</u>洩
　目録に「之」が無い．「奉」がある．

令は「おきて」，奉は「ささげる」という意味である．

絵巻の文章の意味は「右の規矩元法別伝一巻・八事の秘伝は，<u>私(貞徳)が年来工夫して自ら発見したものである</u>．このうち(別にあるとされる)「規矩元法」は弟子たちの懇望によって，それぞれに与えてきたが，この「別伝」及び「自発の画」を授けた者は稀である．しかし，貴殿は絶えず熱心に修行(勉強)をされているので，その熱心さに感じて特にこの巻物を<u>授ける</u>．」(6,7行目)である．<u>この「授ける」の文言は清水貞徳である</u>．これは重要な秘伝ゆえ未熟の者へは決して与えないことを意味する．さらに，秘技は口伝によるとも記されており，通常与えた免許皆伝書とは

別格で，高弟へ奥義を伝授する際の秘伝書であろう．しかし次に述べる(4)の傳来之棟統には，貞徳の没年や没後まで書いてあるから，この部分は後人が書いたものである．「当流中興開基…門弟数千人ニ及ブ…」の「当流中興開基」により，この部分は，門弟が書いたものであろう．しかし絵巻には門弟に関する記事はないから，この文は貞徳没後(1717)の近い時期のものであろう．

一方目録には「奉」がある．これは「信居公に奉げる」という意味だろう．７行目の「奉授」の文言は貞徳であり，貴殿を除けば目録も絵巻と同じ文言である．つまり「貞徳が殿様に秘伝を奉捧げた．」ことを篠田が記述していることになる．しかし殿様は秘伝を授けられるほどの高弟とは考えられない．さらに1759年に目録が書かれ，貞徳は1717年に没しているから，1738年ころに生まれた殿様が貞徳の高弟とは考えられない．従って目録は梁田が殿様用に原本の秘伝書を模写・改良したのである．

(4) 傳来之棟統に於ける細部の相違点

金沢清左衛門尉

「有」の位置が異なる．絵巻には「也」がある．

絵巻　目録

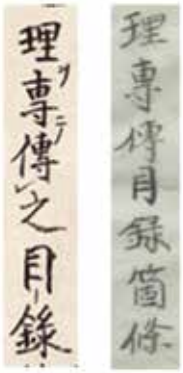
清水太右衛門尉貞徳

目録(1759)の数人は誤りである．清水貞徳著『清水貞徳規矩法図解原本伝書』(1699)の奥書では「数百」と書いてある[7]．梁田は殿様用の貴重な書であることを強調するためにわざと「数人」と記述したかも知れない．絵巻が書かれたのは清水貞徳(1645-1717)没後である．当時，幕閣要路は国絵図事業等に必須の西洋測量術の発祥を紅毛流とするべき目的があった．このため幕閣要路は紅毛流を標榜する清水を登用した．また紅毛流を学術的に確立するために，測量術全般に優れる学者の細井廣澤(1658-1735)も登用した．従って当時，清水流測量術は数十年で「数百」から「数千人」に急速に普及した．絵巻の「門弟数千人」(新発見)は，清水流測量術の隆盛を示す貴重な数値である．

絵巻　目録

絵巻に「之」が有るが，目録に「之」が無い．

絵巻　目録

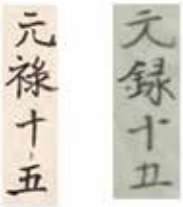


「旧」が異なる．絵巻の方が古い漢字であろう．

絵巻　目録

「禄」，「五」が異なる．

絵巻　目録



5．纏めと結論

内容の比較　(1) 絵巻は作者，作成年，タイトルが無い．高木崇世芝(蝦夷地古地図研究家)が江戸中期(1651-1745)の可能性がある．」という判定結果を寄せている．他方目録は宝暦９(1759)年に簗田義智(義和)が書いたものである．

伝来経路　絵巻から，細井廣澤の孫萱次郎から盛岡藩福岡あるいは相馬大作の繋がりを得る．また貞徳と廣澤は1702年頃から譜代大名稲葉丹州に仕え，測量を通じて交流があり，廣澤が清水貞徳親子から絵巻を入手及び筆写した可能性がある．「傳来之棟統」では，絵巻は清水貞徳で終わっているが，目録は清水に続いて，今井藤太夫→梁田物集女→梁田門弥太まで伝わっている．目録は梁田門弥太義智(義和)が殿様三戸信居に献上したものである．このことより絵巻は目録より古いと考えられる．

(2)目録は，　　別伝自発之巻
箇條
現差用捨，凡例，目的并眼精之格，分基発法がある．しかし絵巻にはこれらがなく，突然「剸盤之働」から始まる．この理由は(4)で述べる．

(3)目録は小さい字で模写と見られるミスの修正が多くある．特に「知進退而高」，「知向山前山之差」，「知前面一開」，「分度角形」，「円積知円周」，「円知平町円物求径貫術也」には模写の証拠が見られる．これに比べ絵巻には模写の証拠は見つからない．また「右規矩元法別伝一巻并八事…」の文章から，目録が最初の書ではなく，篠田が原本を殿様の献上用に模写・書き換えたことが判る．

(4)「伝来之棟統」では，絵巻には貞徳の門弟は「数千人」(新発見)とあるが，目録には「数人」とあり，これは誤りである．従って「数千人」は当時の国策による清水流測量術の隆盛を示す貴重な数値である．

宗教との関連　目録の最初の４ページの別伝自発之巻は絵巻にない．絵巻は著名，著者名，作成年月もない．樋口(1601-83)はキリシタンの容疑で1646年から1667年まで実に21年間も牢獄にあった．この間，貞徳(1645-1717)は１歳から22歳，廣澤(1658-1735)は12歳から33歳である．貞徳，廣澤は樋口の牢獄を目の当たりにしている．従って絵巻からキリスト教に関わる内容や著名，著者名，作成年月を書かなかったことが考えられる．あるいは絵巻は貞徳の死の直後なので未完成であった，あるいは秘伝書ということが考えられる．

以上により「絵巻は目録より古いであろう．目録は殿様用に模写・改良した本である．」という結論を得る．

参考文献

[1]　堀口俊二：規矩元法別伝一巻・秘八事絵巻と規矩元法別伝目録秘八目録図解の比較，日本数学会2015年度秋季統合分科会, 数学基礎論および歴史分科会，講演アブストラクト pp. 9-10., 2015年９月

[2]　著者・年代不明：『清水流測量術秘伝書』(＝『秘伝規矩元法別伝・八事絵巻』)，測量機器資料館　「はかりの館」，長野県中条村4438-6

[3]　下斗米哲明：取材レポートNO8－２清水流規矩術秘伝書を読み解く，2008.12

[4]　下斗米哲明：取材レポートNO8－３清水流規矩術秘伝書～解説と写真・解読文～，2010.6

[5]　簗田義智：『規矩元法別伝目録秘八目録図解』，宝暦９(1759)年，東北大学付属図書館林集書1699

[6]　堀口俊二・下斗米哲明：規矩元法別伝一巻・秘八事絵巻の伝来経路と影印，新潟産業大学紀要第45号，　pp.79-99., 2015

[7]　鈴木一義・田中義一：清水太右衛門貞則の直弟子時代の清水流測量術について，Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. E, 34, pp.17-33., December 22, 2011

[8]　清水太右衛門貞徳：『清水貞徳規矩法図解原本伝書』，1699(元禄12)年，東北大学付属図書館林文庫2570

[9]　清水貞徳 述・石田景如 記:『規矩元法別伝』，年月不明，国立国会図書館デジタルコレクション

[10]　松崎利雄：『江戸時代の測量術』，総合科学出版，1979年９月

[11]　岩手県姓氏歴史人物大辞典編纂委員会：『岩手県姓氏歴史人物大辞典』，角川書店，1998年

[12]　小曽根淳：紅毛流として伝来した測量術について（Ⅰ），京都大学数理解析研究所講究録, 第1787巻2012年, 127-137.

[13]　堀口俊二：規矩元法別伝一巻・秘八事絵巻と規矩元法別伝目録秘八目録図解の比較，2015年８月京都大学数理解析研究所 研究集会「数学史の研究」講演資料

Comparison of the Picture Scroll of Hiden Kikugenpou Betsuden-Hachiji and the Illustrations of Kikugenpou Betsuden Catalog Hihachi Catalog

Shunji HORIGUCHI・Tetsuaki SHIMOTOMAI

2017年１月

新潟産業大学経済学部紀要　第48号別刷

BULLETIN OF NIIGATA SANGYO UNIVERSITY
FACULTY OF ECONOMICS

No.48 January 2017